

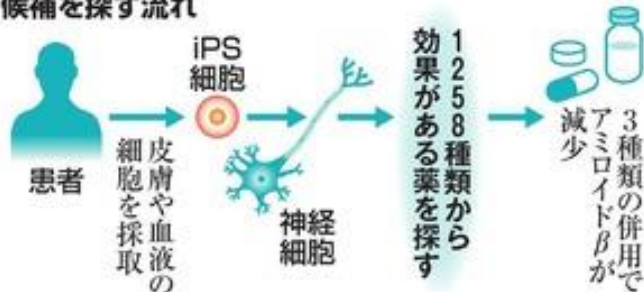
大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4035 号 2017.11.23 発行

i P S創薬でアルツハイマー病の候補薬、京都大グループ 西川迅

i P S細胞を使ったアルツハイマー病の薬の候補を探す流れ



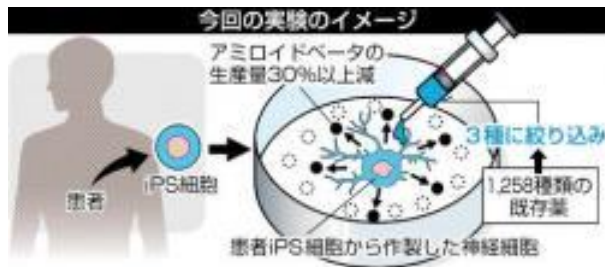
朝日新聞 2017年11月22日
 認知症で最も多いアルツハイマー病で、患者の脳にたまる特定のたんぱく質を減らす効果がある薬を、京都大の井上治久教授（幹細胞医学）らの研究グループが、患者らから作った i P S細胞を使って特定した。パーキンソン病の治療薬など3種類の組み合わせが有効という。22日、米科学誌セルリポーツに発表する。

表する。

アルツハイマー病の原因ははっきりしていないが、患者の脳に「アミロイドβ（ベータ）」というたんぱく質が発症前からたまるのが分かっており、蓄積を減らせば発症を抑え、治療につながると期待されている。この病気の治療薬が販売されているが、進行を遅らせる対症療法だ。

グループは、患者の皮膚などから作った i P S細胞を使って大脳皮質の神経細胞を作り、病気の状態を再現。この手法で作った患者9人と健康な人4人の大脳皮質の神経細胞を使い、1258種類の既存薬からアミロイドβを減らす効果があるものを探した。その結果、パーキンソン病、ぜんそく、てんかんの治療薬という3種類の併用が最も効果が高く、患者でアミロイドβが作られる量を平均30%以上減らせた。

i P Sでアルツハイマー抑制薬 京大、組み合わせ発見 京都新聞 2017年11月22日 実験のイメージ



アルツハイマー病の原因物質の生産を抑制する既存薬の組み合わせを、京都大 i P S細胞研究所の井上治久教授や近藤孝之助教のグループが、患者の i P S細胞（人工多能性幹細胞）から作製した神経細胞を用いた実験で見つけた。今後、動物実験で効果や安全性を詳しく検証する。米科学誌セル・リポーツで22日発表する。

表する。

アルツハイマー病は、大脳皮質の神経細胞が作るタンパク質断片「アミロイドβ（ベータ）」が脳内に過剰に蓄積することが発症原因の一つと考えられている。アミロイドβを減らす新規薬剤の開発が世界的に進められているが、副作用などの課題から製品化には至っ

ていない。

グループは、患者由来の i P S 細胞から作製した神経細胞に 1 2 5 8 種類の既存薬を投与し、アミロイドβの生産量を最も効率的に減らす 3 種類を突き止めた。パーキンソン病の治療薬「プロモクリプチン」、ぜんそくの「クロモリン」、てんかんの「トピラマート」で、これらの混合剤は 9 人の患者の神経細胞が作るアミロイドβをそれぞれ 3 0 % 以上減らす効果があることを確認した。3 種の薬剤は既存薬として一定の安全性が認められているために、新規物質に比べて医療応用しやすいという。

井上教授は「今後、動物実験を進めるとともに、これらの薬剤がアミロイドβの量を減らすメカニズムを解明していきたい」と話している。

「トライやる」20年 薄れる原点 中学生職場体験 神戸新聞 2017年11月22日 店員から指導を受けながらレジの作業をする東落合中の生徒ら＝神戸市須磨区白川台3



中学生が地域で職場体験をする「トライやる・ウィーク」が20年目を迎えた。2017年度を含む体験者は約99万4千人に上り、100万人目前となっている。神戸連続児童殺傷事件を教訓に「心の教育」として始まり、その後、中学生のキャリア教育として定着した。兵庫県教育委員会のアンケートでは生徒や保護者の満足度が高い一方、「学校と連携しながら実施できた」とする事業所は半数にとどまり、「現場の負担が大きく、

維持が難しい」「原点が忘れられ、イベント化している」との声もある。(井上 駿)

コープ白川台（神戸市須磨区白川台3）のレジで、「トライやる」体験中の中学生の声が響く。東落合中2年の男子生徒は「たまに利用するが、こんなに作業があるなんて。陳列した商品を買ってもらえてうれしい」と話す。

初年度から16年度までの19年間で約1万5千人を受け入れてきたコープこうべ。指導する政淳子店長（59）＝神戸市須磨区＝は「今の中学生は『知らない大人には話さないように』と教えられてきた世代なので、店内でお客さんや店員と全力でふれあってほしい」と語る。

同市内の一部の学校では、中学時代にトライやるを体験した教員がその意義や背景を事前学習として生徒に伝えている。担当した男性教諭は「今の生徒には事件も阪神・淡路大震災も生まれる前の出来事。『心の教育』が原点にあることを伝えないと、ただのアルバイトと差異がなくなる」と危機感を抱く。

県教委のアンケートでは、活動場所は一貫して1年目とほぼ変わらない約1万7千カ所を維持。一方、事業所から「学校と連携しながら実施できた」という回答は、調査を始めた05年度以降70%台を維持していたが、12年度以降は50%台に落ち込んでいる。教員が期間中、受け入れ先を訪れる機会が減っていることなどが要因とみられ、別の男性教諭は「事業所数が多く、任せっきりになってしまう部分もある」とする。コンビニの受け入れ担当者は「利益優先で回しているのでも意義を分かってもらうにも限度がある」と話す。

県教委はトライやるの事前・事後学習の充実を進めており、15年度には小中高の12年間を通じ、自身の将来を考える「キャリアノート」も導入した。『心の教育』を原点に始まった施策の意義を再確認してもらい、児童生徒の成長に応じたキャリア教育を実践していく」としている。

【講師のホンネ】「特例子会社」について知っておこう 紺野大輝

Sankeibiz 2017年11月22日

障害者雇用の研修を行う際、参加者に「特例子会社について知っている人」と促すと、なかなか手が上がらない。障害者採用の当事者である経営者や人事担当者でさえ反応は鈍いが、ぜひ知っておいてほしい。

障害者の働き方は大きく2つに分かれる。一般就労と福祉的就労だ。福祉的就労とは、障害者総合支援法に定められた就労系障害福祉サービスである。通常の事業所に雇用されることが困難な障害者に、就労の機会の提供や生産活動の機会の提供などを行っている。雇用契約を結ぶA型と、雇用契約を結ばないB型の2種類がある。

一方の一般就労とは企業に勤める働き方。現在、従業員の2.0%以上の障害者を雇用することが義務付けられている。つまり、従業員が1万人いる企業は200人の障害者を雇わなければならない。そうすると各部署で障害者が働きやすい環境をつくるよりも、障害者の働きやすい会社を別に作り会社自体を障害者中心の職場にしてしまう方が雇用をしやすい。このような経緯から生まれたのが「特例子会社」だ。特例子会社で障害者を雇うことで、そこで働いている障害者を親会社の法定雇用率の計算に入れることができる。

特例子会社の条件は、親会社との人的関係が緊密であること。雇用される障害者が5人以上で、全従業員に占める割合が20%以上であること。雇用される障害者に占める重度身体障害者、知的障害者、精神障害者の割合が30%以上であることだ。

これは働く障害者にとってもメリットが大きい。まず、重度の障害を持っている方も働きやすい環境である。重度の方は特に配慮が必要だったり、できることが限られていたりするが、特例子会社は重度の方も働きやすいように配慮されている。もう一つは、従業員に占める障害者の割合が高いことだ。障害者の離職理由は人間関係がうまくいかなかったりなじめなかったりすることが多いが、それは働いている障害者が少ないことが原因だ。しかし、特例子会社は多くの障害者が働いているのでこのようなことも少ない。

2016年6月1日現在、448社の特例子会社があり1万8950人の障害者が働いている。企業の方には、特例子会社も選択肢の一つとして頭の片隅に置き、障害者雇用を進めていてもらいたい。

【プロフィール】紺野大輝

こんの・たいき 1976年、北海道生まれ。生まれつき脳性まひの障害を持つ。現在は従業員1700人の企業の人事部で働く傍ら、障害者雇用の研修や障害者の就労支援を全国で行う。講演回数は250回を超える。「全国・講師オーディション2015」で「奨励賞」を受賞。2016年12月、「障がい者の就活ガイド」(左右社)を出版。

自公、ギャンブル依存症法案を再提出へ

朝日新聞 2017年11月22日

自民、公明両党は21日、競馬やパチンコなど既存ギャンブルの依存症対策を強化するための基本法案を開会中の特別国会に再提出する方針を確認した。依存症対策を訴える日本維新の会を含む野党にも働きかける。ただ、法案の審議・成立は困難な情勢。同法案は自公がまとめた議員立法として今年6月に衆院に提出、その後の衆院解散で廃案になっていた。

4億2700万円補正予算案 神奈川県一般会計、台風21号復旧など

産経新聞 2017年11月22日

県は21日、10月に発生した台風21号に伴う復旧工事費など総額約4億2700万円の一般会計補正予算案や、昨年7月、入所者19人が刺殺されるなどした相模原市の障害者施設「津久井やまゆり園」を建て替えるための工事設計費として次年度以降の支出を定める債務負担行為などを発表した。29日の県議会定例会に提案する。

台風21号による復旧工事費として約3億9700万円を計上する。県は当初、県内被害総額が7億3千万円超（うち県管理分は約6億4千万円）にのぼるとの見通しを示していたが、黒岩祐治知事は「県管理分の被害総額は9億円以上となる見込みで、それ以外の被害額は、全容を確認することが困難だ」とした。被災箇所は道路や海岸など73カ所にのぼるといふ。

また、やまゆり園の早期再生に向け、次年度以降に相模原市緑区の現在地で建て替える施設の工事設計費として最大2億1300万円を計上する。新たな施設は最大定員88人を想定しているが、利用者の意向を踏まえたいうで、設計変更を行う。県は仮移転している横浜市港南区の芹が谷園舎周辺の施設整備とあわせて132人分の居室を確保する方針だ。

1人親家庭に、経済的自立を図るために修学資金などを貸し付ける「母子父子寡婦福祉資金貸付金」については、申し込みが当初見込みを上回ったために特別会計補正予算案として約8980万円を計上する。

【宇都宮・障害者施設暴行】初公判で検察「口より暴力選ぶ」 両被告、起訴内容認める



宇都宮地裁 産経新聞 2017年11月21日
傷害事件で家宅捜索を受けた知的障害者支援施設「ビ・ブライツ」
＝9月11日、宇都宮市

宇都宮市の知的障害者支援施設「ビ・ブライツ」で入所男性が重傷を負った事件などで、傷害と暴行の罪に問われている元施設職員で無職、松本亜希子被告（25）＝宇都宮市＝と、傷害罪に問われている無職、佐藤大希被告（22）＝栃木県那須町＝の初公判が20日、宇都宮地裁（柴田誠裁判官）で開かれ、両被告は起訴内容を認めた。

検察側は冒頭陳述で、松本被告について「指導に従わない入所者には口頭で伝えるより暴力の方が手っ取り早いと考えるようになった。平成27年ごろから平手などの暴力を振るうようになった」と指摘。職員の補助をしていた佐藤被告については「松本被告に倣って入所者に暴行するようになった」とした。検察側は、松本被告の暴行の詳細について、男性（28）にアルコールスプレーを吹き掛けたり、異動先の施設で入所者の女性（57）の顔面を食事に押し付けたりしたと主張。弁護側は争わない姿勢を示した。

起訴状によると、2人は社会福祉法人「瑞宝会」が運営する「ビ・ブライツ」で4月15日午後6時ごろから約40分間、男性の腰付近を数回蹴ったり左肩付近を殴ったりする暴行を加え、腹腔（ふくくう）内出血や腰の骨を折るなどの重傷を負わせたとしている。また、松本被告は8月23日、同会が運営する栃木市の障害者支援施設で女性に暴行を加えたとしている。

男性が重傷を負った事件をめぐっては、内部調査の文書を破棄した証拠隠滅の罪で県警OBの同会元職員2人の罰金刑が確定している。

映画通じ発達障害児の支援考えて 美作大生ら企画、23日上映会

山陽新聞 2017年11月21日

美作大社会福祉学科（津山市北園町）の学生と、発達障害のある子どもの保護者らでつくるグループ「Let's（レッツ） mamacom（ママコム）」は23日、特別支援教育の対象児童も通常のクラスで共に学ぶ小学校にスポットを当てた映画「みんなの学校」を、美作学園100周年記念館（同所）で上映する。学校や地域が一体となって支える様子が描かれており、学生たちは「支援の在り方について考えるきっかけにしてほしい」と呼び掛けている。

ママコムは、薬師寺明子准教授（同学科）のゼミに所属する4年生7人が、親同士のネットワークづくりを進めようと、保護者らに働きかけて昨年10月に結成。毎月1回集まり、子育てに役立つ情報を交換したり、悩みや不安を分かち合ったりしてきた。

映画のポスターを手に、来場を呼び掛ける美作大の学生たち

みんなの学校（真鍋俊永監督、106分）は、大阪市立大空小の1年間を追ったドキュメンタリー。自分の気持ちをコントロールできない子どもや、特別なサポートを必要とする児童が同じ教室で過ごしながら、個性を認め、共に成長していく姿を記録した。

当日は上映のほか、ママコムの活動紹介のプレゼンテーションもある。ゼミの代表を務める石川絵里さん（22）は「映画を通じて、障害のある人やその家族を地域ぐるみで支えていく方法を考えたい」と話している。

上映は午後2時から。無料。定員は300人で、22日までに大学ホームページか、事務局に電話（0868-32-8070）で申し込む。



「認知症カフェ」を開くコツ、100人超が学ぶ 茂木克信



朝日新聞 2017年11月21日
実践報告や質疑を通じて認知症カフェの意義や課題を考えた＝能代市上町の「能代ふれあいプラザ・サンビノ」

認知症の人や家族



家族が集い、介護の専門職や地域の人らと気軽に語り合える認知症カフェ＝KM＝の開設講座が19日、秋田県能代市で開かれた。県内は高齢化が進む一方、認知症カフェの普及が遅れている。講座には100人を超す福祉関係者らが参加し、カフェの意義や課題を学んだ。

県内には7月1日現在、認知症やその疑いがある人が推計で5万3千人いる。本人や家族を地域で孤立させないために設置されたカフェの数は2015年の厚生労働省の調査で14カ所と、東北6県で最も少なかった。

講座は朝日新聞厚生文化事業団が主催。「認知症カフェハンドブック」などの著書があり、自らも京都市でカフェを運営する武地（たけち）一（はじめ）・藤田保健衛生大教授が講師を務めた。

武地さんは、認知症の80代の祖母が13年間同居していた30代の孫の男に暴力を受けて死亡した事件を紹介。「認知症は患者と家族の関係性を壊してしまう。『自分で何でもできる』と強がる患者に、どうすれば支援を受けてもらえるかを考える必要がある」と話した。

武地さんによると、認知症の人の家族には精神的・経済的負担や孤独感、介護を続けることへの不安感がのしかかる。一方で、本人も家族に見捨てられることへの不安や申し訳なき、自分を認めてほしいといった苦しい思いを抱えているという。

そのため、「カフェの運営者は認知症をよく知り、利用者がくつろげる場づくりが求められる」と指摘。ケアマネジャーや看護師、医師といった専門職が関わるほか、「認知症の人にもできることをやってもらう形で運営に携わってもらうといい」と述べた。

東京パラリンピックで活躍期待 兵庫県が「特別強化支援」29選手認定

産経新聞 2017年11月22日

2020年東京パラリンピックへの出場や活躍が期待される有望な選手に対し、県が遠征費などを支援する「県障害者スーパーアスリート特別強化支援選手」に指定された選手の認定式が21日、県庁で行われた。競技力向上などを狙って今年度初めて認定した。

金沢和夫副知事（左）から認定書を受け取る上地結衣選手＝県庁

支援するのは遠征費や合宿費用などで、東京パラリンピックでメダルへの期待が高いとされるA支援に6選手、出場が期待されるB支援に23選手を選出。A支援は最大で年間30万円、B支援は同15万円を給付する。

この日の認定式には、車いすテニスの上地結衣選手らA支援に選ばれた選手4人が出席。金沢和夫副知事が「みなさんは日本全体の希望の星。プレッシャーを力にして活躍してほしい」とあいさつし、選手一人ひとりに認定書を手渡した。



上地選手は「東京パラリンピックまで千日を切ったが、焦らず自分のペースで練習や大会を積み重ねていきたい」と抱負を語った。

ほかのA支援選手は次の通り（敬称略）。

円尾敦子（トライアスロン）▽別所キミエ（卓球）▽正垣源（バドミントン）▽谷口真大（マラソン）▽北菌新光（柔道）

23歳、「発達障害」の彼が抱える生きづらさ 思わず暴言、賭け事や性欲を抑えられない

姫野 ケイ：フリーライター

東洋経済 2017年11月22日

独特なこだわりを持っていたりコミュニケーションに問題があったりするASD（自閉症スペクトラム障害／アスペルガー症候群）、多動で落ち着きのないADHD（注意欠陥・多動性障害）、知的な遅れがないのに読み書きや計算が困難なLD（学習障害）、これらを発達障害と呼ぶ。

今までは単なる「ちょっと変わった人」と思われてきた発達障害だが、脳の病気であることが少しずつ認知され始めた。子どもの頃に親が気づいて病院を受診させるケースもあるが、最近では大人になって発達障害であることに気づく人も多い。

そんな発達障害により生きづらさを抱えている人のリアルに迫る本連載。第1回はADHDと診断された福島県在住の横山匠さん（23歳・仮名・コンビニアルバイト）に話を聞いた。

生きづらさを抱える彼ら、彼女たちのリアルに迫ります
（撮影：今井 康一）



思ったことをすぐ口に出し、人間関係が悪化

横山さんが症状に気づいたのは、高校中退後に働き始めてからだった。農業高校に通っていたが、福島で原



発事故が起きたことが原因で農業の勉強を続けられなくなり、クラスメートたちと一緒に学校を中退した。その後は高校在籍時からアルバイトをしていたコンビニで本格的に働き始めた。

そこで事件は起こった。

「パートの女性に仕事を指示された際、つい『うるせえババア！ 言われなくてもわかって

んだよ!』と、心の声を口にしてしまったんです。それも1度ではなく陰悪なムードになり、反省して謝って和解をするということが何度かありました」(横山さん)

悪意を持って暴言を吐くわけではなく、ナチュラルにあおってしまう。なぜ、相手の気持ちを考えられずに思ったことをすぐ口に出してしまうのか。悩んだ横山さんは親に相談する。すると、幼い頃に親が異変に気づき病院を受診し、ADHDの診断が下りていたことを知った。ADHDであることを何も知らされていなかった横山さん。18歳にして初めて、自分の生きづらさの原因がわかった。

「自分がADHDだと知ったときはつらかったです。でも、原因がわかったなら病気と向き合っていこうと病気についてネットで調べたり、自分と同じようにADHDに悩む人と話をしたりしました」(横山さん)

その後、東京にあこがれて上京。麻雀が趣味であったことから都内の雀荘で働き始めた。雀荘は客との距離が近い。麻雀の勉強を重ねて強くなった横山さんはここでも、客に向かって「下手くそ!」と暴言を吐いてケンカになり、上司から怒られることが多々あった。職場でトラブルを起こしてしまうのは困る。そう思ってメンタルクリニックを受診する。そこで処方されたストラテラという薬により、思ったことをすぐ口に出してしまうような攻撃的な症状は落ち着いたように見えた。

「症状は落ち着いたのですが、薬の副作用で眠くなっちゃって。しかも、ジェネリックがないので高いんです。2週間分で1万5000円くらい。2週間に1度の診療にも2万円ほどかかってしまい、経済的にもつらくて薬も通院もやめてしまいました」(横山さん)

いけないとわかっているのに

また、横山さんはギャンブル依存症だと自覚している。「BMC Psychiatry」に掲載されているMartin A. Katzman、Timothy S. Bilkey、Pratap R. Chokka、Angelo Fallu、Larry J Klassenらによるイギリスの論文「Adult ADHD and comorbid disorders: clinical implications of a dimensional approach」(大人のADHDと併存疾患: 次元的アプローチの臨床的意義)によると、「ADHD患者による物質乱用や依存症は正常な人の約2倍」とある。

「ギャンブルは強いほうなので、たいてい勝つんです。でも、負けることもあります。この5万円を使ってしまったら今月ご飯が食べられなくなるとわかっているのに、競馬にぶち込んでしまうこともありました。

おカネはあるだけ使ってしまうので、貯金はできません。当時の職場の雀荘は給料の前借りができました。だから、負けておカネがなくなったら給料を前借りして、それをまたギャンブルにつぎ込んでいました」(横山さん)

もう1つ、横山さんが依存していたのが性だった。セックスをしたくてしたくてたまらない。中学の頃、当時好きだった女の子と体の関係を持って以降、性欲が暴走しているという。まだ23歳という年齢を考えると、頭の中がそのことでいっぱいになってしまうのは自然なことかもしれないが、横山さんはあふれる性欲を風俗で満たす方法をとった。でも、風俗もそれなりにおカネがかかる。

ギャンブルとセックスに依存していた横山さんだが、あるとき競馬で100万円近く負けてしまう。また、なんとかセックスにこぎ着けたいと50万円ほど貢いだキャバクラ嬢からも、一度も肉体関係を持てぬまま関係を絶たれてしまった。

この経験からさすがに懲りて、ギャンブルをするなら1回1000円や2000円など少額で、性欲は1日3回の自慰行為で解消することで落ち着いている。ただ、女性とセックスがしたいという根本的な欲は解消されていないのが悩みだという。

仕事中は必要最低限の会話のみにとどめる

東京で働いていた雀荘では、最初は契約社員からスタートして正社員となったが、残業代の未払いに耐えきれず退職。昨年、地元の福島に戻ってきた。現在は祖父母の家に身を寄せ、コンビニで働いている。今は治療を行っていないというが、働くうえで困っていることはないのだろうか。

「ADHDの特徴の1つに落ち着きのなさが挙げられますが、僕の場合、その落ち着きのなさはコンビニや雀荘といった、せわしく動き回ったり、つど細かな仕事が発生したりする職に生かしていると思います。そして、これはネットで調べたり、ほかのADHDの患者さんと話したりした際にわかったのですが、この病気の人たちって、深夜から午前中にかけて睡眠を取る、やや昼夜逆転ぎみの生活サイクルがいちばん体調のよい人が多いみたいなんです」(横山さん)

横山さんも深夜2~3時に寝て朝は10時ごろに起きる。正午から8時間、または14時から8時間のシフトで働く。雀荘で働いていた頃は夜勤があったが、今の仕事では夜勤を入れない。

「思ったことをすぐ口に出してしまわないよう、仕事中は必要最低限の会話におさめるよう心掛けています。でも、どう見ても未成年がたばこを買いに来て、『年齢が確認できるものを見せてください』と言っても、『は？ そんなもんねえよ』と見せてくれないときは、きっぱり『ダメだろ！』とかは言っちゃいますけどね(笑)」(横山さん)

以前はギャンブルや風俗でおカネを使ってしまい、貯金ができなかった横山さんだが、現在は夢に向けて貯金中だ。

「お酒が好きなので、みんなで楽しく飲めるようなスポーツバーを友達と開きたい、おカネを貯めているところです。僕はまたお客さんとケンカしちゃうかもしれないので、経営側にまわり、店にはほかの人に立ってもらおうかなと。

今は祖父母の家に住んでいて家賃が必要ないので、その分貯められそうだなと思っています。あと、お酒を覚えてからシメのラーメンにハマり、30kgほど太ってしまったので、とりあえずやせようと縄跳びとウォーキングを頑張っているところです」

そのときの衝動で行動してしまう症状を抑えるため、横山さんは工夫と努力を重ねている。まずは、このままうまく病気と向き合いながら、貯金と減量が成功するのを願いたい。

名古屋城、「木造天守もエレベーターを」 障害者団体 日本経済新聞 2017年11月21日



名古屋城天守閣の木造復元で、忠実に再現するためエレベーターを設置しないとした名古屋市の方針を巡り、障害者団体「愛知障害フォーラム」は21日、障害者側に意見聴取せずに方針をまとめた理由説明などを求める河村たかし市長あての公開質問状を提出した。記者会見した辻直哉事務局長は「エレベーターを設置し、誰も排除しない城にしてほしい」と訴えた。記者会見した愛知障害フォーラムの辻事務局長(写真中央、名古屋市中区)

鉄筋コンクリート製の現行天守閣にはエレベーターが設置されている。市は16日の有識者会議で、「史実に忠実な復元」のため新天守閣には設置しない方針を表明。代わりに階段を椅子で上り下りする「チェアリフト」を地階から5階まで取り付けるとした。

辻事務局長は会見で、障害が重く椅子に移るのが困難な人もいると指摘。代替案として不十分だとし、「全ての人が安心して楽しめる建物になると信じたい」と話した。

公開質問状は▽なぜ忠実な復元を優先するのか▽障害者の意見を反映せず方針を決めたのはどうしてか——など8項目で、11月末までの回答を求めた。市はエレベーター設置について、今年度中に結論を出す考えだ。

